

報告

2012 年九州支部会報告 ～12 月 8-9 日、熊本博物館～

原 秀夫（熊本博物館）

1. はじめに

九州支部では、年に 1 回、秋頃に支部会を開催しています。今年は、12 月 8 日、9 日の 2 日間、熊本市中央区の熊本博物館で実施しました。熊本博物館は、人文・自然の各分野を対象とした市立の総合博物館で、天文関係ではプラネタリウムが設置されています。

九州支部は、会員数が少なく地域も広いことから、例年支部会への参加者は多くありません。しかし、今回は、比較的アクセスの良い熊本市で開催したこともあり、会員外も含めて 21 名の参加がありました。また、昨年の約 2 倍（16 件）の一般発表がありました。

2. 第 1 日（12 月 8 日）

2.1 開会・自己紹介（13:15～13:30）

今回は、九州支部以外や会員外からの参加もあったことから、初めに簡単な自己紹介の時間を設けました。

2.2 一般発表 1（13:30～15:45）

8 件の一般発表を行いました。特に、後半の 4 件は、2012 年 5 月の日食に関するセッションとしました。

- 「中学理科・天文単元における課題」
下山田隆（大町町立大町中学校）
- 「スペースガード探偵団の紹介」
高橋典嗣（日本スペースガード協会、
明星大学）
- 「九州大学ペガサスプロジェクトの活動紹介」
藤原智子・山岡均（九州大学）
- 「1874 年フランス日本隊の写真集発見」
松本直弥（長崎県天文協会）

- 「長崎における天文ゴールデンイヤーの天文普及活動」

松本直弥（長崎県天文協会）

- 「鹿児島で見られた 3 回の日食」
前田利久（鹿児島県立国分高等学校）
- 「金環日食の取り組みについて」
中山健二（熊本市立健軍小学校）
- 「新聞は金環日食をどう伝えたか」
白鳥裕（東海大学総合経営学部）

2.3 企画講演（15:45～16:45）

私たちが天文教育普及を行っていく上で、新聞やテレビなどのマスメディアの力は大きなものです。そこで、地域メディアから見た天文教育普及について、熊本日日新聞社上草支局長の鹿本成人氏に講演いただきました（図 1）。鹿本氏は、ご自身が学生時代からの天文家であるとともに、熊本日日新聞では、様々な天文に関する記事を執筆されています。



図 1 鹿本成人氏による講演

講演では、ご自身が書かれた記事を題材に、一般市民がどのような点に注目されるかを教えてくださいました。そして、結論として挙げられたのが次の 2 点です。

- ・星の記事は、天文に関わる私たちが思っている以上にマスコミも読者も求めている。
- ・事前に情報を積極的に発信する（報道資料を書く）。

今後の活動に向けて、大いに参考になる話を聞くことができました。

2.4 懇親会 (18:30~21:30)

熊本城の一角に昨年春オープンした「桜の馬場 城彩苑」内にて実施しました。15名の参加がありました。

3. 第2日 (12月9日)

3.1 一般発表2 (9:30~11:45)

前日に引き続き、一般発表を行いました。中学・高校・大学、科学館・博物館での日常の活動を垣間見ることができる発表でした。

- 「ユニバーサルデザイン天文教育の活動紹介」

嶺重慎 (京都大学大学院理学研究科)

- 「地軸の傾による季節変化を理解するための教材の開発と大気差の近似関数について」

山田洋 (佐賀市立富士中学校)

- 「福岡教育大学におけるサイエンスキャンプ」

金光理 (福岡教育大学)

- 「天体観望会スタンプラリーの実施と効果」

橋本未緒 (佐賀県立宇宙科学館)

- 「1年間の活動報告」

仲野誠 (大分大学教育福祉科学部)

- 「ルワンダへの出前授業」

高橋慶太郎 (熊本大学大学院自然科学研究科)

- 「熊本博物館と連携した天文学習の取り組み」

湊啓輔 (熊本県立第一高等学校)

- 「熊本博物館プラネタリウム 35年の歩み」

原秀夫 (熊本博物館)

3.2 プラネタリウム観覧 (12:15~13:05)

熊本博物館のプラネタリウムは、2011年3月にリニューアルしました。新しいプラネタリウムは、五藤光学研究所のクロノスII (光学式) とバーチャリウムII (デジタル式) のいわゆるハイブリッド・プラネタリウムです。

また、熊本博物館プラネタリウムの特徴として、投映番組の自主制作があります。今回観覧した冬番組は、リニューアル後最初の自主制作番組でした。

4. おわりに

今回の一般発表は、質疑応答を含めて1件15分間の時間設定で行いました。例年は発表件数も少ないことから、特に制限無しが多かったようです。この点では、少し窮屈な支部会となってしまったかもしれません。しかし、その分、多くの方の日頃の活動を知ることができ、有意義な中身の濃い会 (図2) になったと思います。参加いただいた方を始め、関係の皆さまにお礼申し上げます。



図2 参加者一同 (第1日の企画講演終了時)

原 秀夫